

令和 2 年 司法試験合格体験報告会



日 時：2021 年 3 月 26 日（金）14:00～16:00
オンライン（ZOOM）により実施

大阪大学大学院高等司法研究科

第一 自己紹介

- ・イタリア 4 年間在住（2 歳～6 歳）、アメリカ 4 年間在住（10 歳～14 歳／小 5 ～中 2）
- ・15 歳／中 3：同志社国際中学校に編入 → 同志社国際高等学校 → 同志社大学法学部法律学科 卒業
- ・大阪大学大学院高等司法研究科 修了 → 司法試験 1 回目、2 回目：不合格
- ・法律事務所の事務員（パート、月火水木金）として勤務 → 司法試験 3 回目：合格

第二 前置き

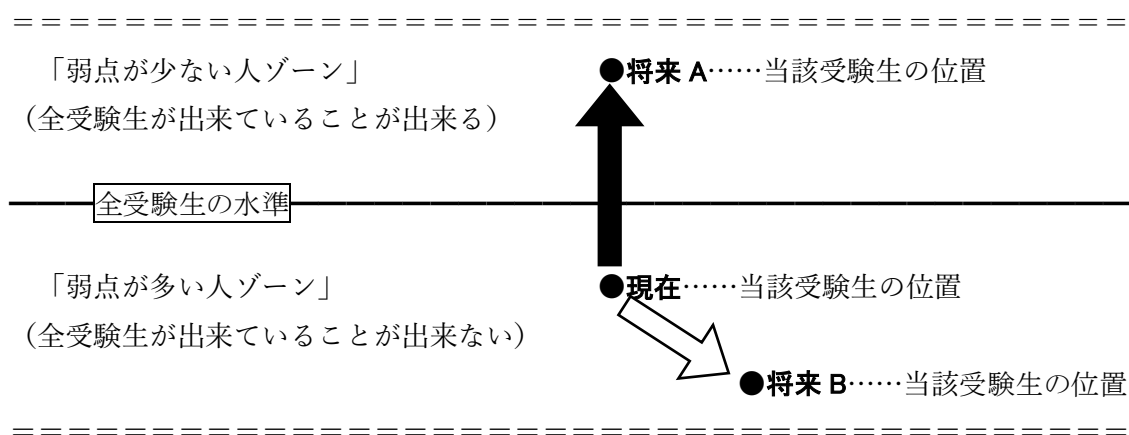
- ・本日の流れ：総論（抽象的な話）→ 各論（短答や論文等の、具体的な話）
総論はサクっとお話しして、各論の中で総論の内容を補充します。

第三 総論

司法試験に落ちるか・落ちないかの違いは、その人に「不合格の原因」があるか・ないか、の差であると思っています。

そして、司法試験は相対評価（※）ですから、「不合格の原因」とは、全受験生との差によって生じます。つまり、「不合格の原因」とは、全受験生の水準に達しない部分が多いこと、すなわち、弱点（他人よりも劣っている点）が多い人が、不合格となります。

そのため、弱点を多く改善することが、合格に直結する、と思います。



（※）：法務省内リンク「司法試験の方式・内容等の在り方について」参照

そこで、合格するために大事なことは、**次の ① ②**であると考えます。

①（自分を客観視して）自分の弱点を把握すること

（上記図でいえば、「全受験生の水準」と「自分自身の●位置」がどれほど離れているかの把握。ポイントは、自分を客観視することです。）

全受験生の水準として最低限、必要なもの（私の周りの合格者全員が出来ていたこと）

㊦ インプット面としては、網羅的かつ正確な、知識と理解が必要です。

（ex. 基本的な受験スキルの獲得：効率的な暗記方法、すぐに答えを見ずに思い出す過程を大事にする、復習の回数だけでなく頻度も大事にしているか、記憶な正確な部分と正確でない部分を区別する）

㊩ アウトプット（演習等）を何周も何周も回していること

（インプットばかりでは落ちると分かっている受験生は極めて多いです）

㊪ 過去問の研究をしていること

（過去問に着手しない受験生は極めて少数です。）

②（自分の弱点を改善するための）目的意識のある勉強方法を行っていること

（上記図でいえば、「黒色の矢印」に相当する行為を行っていること）

（目的意識を持たずに、ただ漠然と勉強をこなす受験生は合格できない傾向にあります。）

もしあなたがきちんと勉強しているのに成績が伸び悩んでいるのなら、500%、勉強方法が間違っています。（1回目・2回目の司法試験を落ちた私が現にそうだったからです）

その勉強方法に目的意識があるのか、ないのかを判別したいのならば、**なぜ自分がその勉強方法をとるのか、ということが説明できる程度の認識を有する必要がある**と思います。（勉強は司法試験に合格するために行うわけですから。勉強は作業ではありません。）

基本的な計画の立て方：結果から逆算して考える。

- ・「過去問」から逆算する。 ∵最終ゴールが司法試験を解くことだから。
- ・逆算する上では、各科目のバランスを大事にする。 ∵科目数が多いから。
- ・「一日の量」は自分の能力と相談する。

（例）問題数が多い場合：

最終的にやりたい問題総数 100 問 ÷ 目標日数 10 日 = 一日 10 問を目標

でも、自分が一日にこなすことが可能な問題数 = 一日 8 問が可能

→ 一日の目標 10 問のうち、不要だと思ふ問題 2 問を削るしかない。あるいは、目標日数を少し先延ばしにして、一日の目標問題数を軽減する。そうやって、自分が一日に可能な問題数に近づけて、調整する。

第四 短答対策

1. 【経験談…そもそも、自分の弱点・目的意識のある勉強方法を知らなかった。】

よく「短答過去問さえやっておけば、短答は大丈夫」という言葉を聞きますよね。ですが、その人が居る現状・知識の量は全く違います。また、「過去問」の勉強方法も、千差万別です。ですので、先輩のアドバイスを聞く際は、その先輩がどういった意味で、その勉強方法を言ったのか、というバックグラウンドを確認することが必要であると思います。この確認を怠ることは、目的意識のない勉強方法につながると思います。(短答・論文に共通する話！)

2. 【短答の弱点を分析し、短答の得点を圧倒的に上げた。】

(1) ケース 1

① 弱点の把握：

過去問以外の分野から出題されると必ず間違えていた。

② 目的意識のある勉強方法：

過去問以外の、知識の網羅性が必要であることが分かった。そのため、日々の勉強では短答過去問を回すだけでなく、+同時並行で、基本的なテキスト・条文を回した。

(2) ケース 2

① 弱点の把握：

網羅的な知識を得ようとする、膨大な量が処理できず、逆に知識の混乱が生じていた。知識があるのに、まったく使えなかった。

② 目的意識のある勉強方法：

勉強する際は、短答知識の位置づけの把握、類似する知識どうしを比較することで、膨大な知識を整理した。単に比較するだけでは、知識の応用もできないので、趣旨・理由づけとセットで覚えることにした。その結果、自分の知識が使えるようになっていた。

(3) 上記を経て、立てた勉強計画：

インプット

注意していたこと：インプットに時間をたくさん費やしすぎない、復習の徹底等。

- ・ 憲法人権 → ①百選の読み込み、②短答過去問で出た判例知識は百選に一元化
(日本語的な意味の理解、判例同士の比較)
- ・ 憲法統治 → ①条文素読、②テキスト。(条文は引っ掛けやすい文言の意識)
- ・ 民法 → ①条文の素読、②テキスト。
(お風呂の時間がもったいなかったため、お風呂の中で防水の bluetooth イヤホンを用い、入浴しながら民法条文等を回しまくっていた)
- ・ 刑法 → テキスト。ただし、罪数・執行猶予・刑罰論のみ、適宜、条文素読。

アウトプット（過去問パーフェクト）

気を付けていたこと：インプットの知識が定着しやすい勉強方法を。バランスを大事に。

- ・日が変わるごとに、「民法」→「憲法&刑法」→「民法」→「憲法&刑法」という様に、毎日、交互に科目をローテーションしていた。
- ・パーフェクトの一番最初のページから順に行うのではなく、別々の分野が満遍なく行えるよう、意識しながら勉強した。
- ・4日置きに、前の分野が巡ってくるので、必然的に復習されることとなった。
→このようにすることで、上のインプットに対する負担を軽減した。だから、働きながらも、少ない勉強時間で合格できたのではないかと自負している。

（一例。各自の勉強状況によっては、異なることであろう）

	民法		憲法		刑法	
	総則・物権	債権法・家族法	人権	統治	総論	各論
1月1日						
1月2日						
1月3日						
1月4日						
1月5日						
1月6日						
1月7日						
1月8日						

第五 論文対策

1. 【アウトプットを怠らないこと！】

アウトプットを怠ることが怖いのは、（ア）論点落ちをしまくる、論点どうしの関連性が分からなくなる、（イ）事案に応じた、メリハリのついた答案が書けなくなることです。

短文事例演習を回しましょう

→（cf. BEXA 坪井りょうすけ「司法試験"最速"攻略法講座」にも同様の記載あり。）

2. 【バランスを大事に！】

- ・論文は各科目のバランスが崩れると、順位が圧倒的に下がる。
- ・各科目間の1日目「民法&憲法」→2日目「行政法&労働法」→3日目「商法&民訴」→

4 日目「刑法刑訴」→5 日目「過去問フル 2~3 通ほど+その他苦手」。6 日目「民法&憲法」→7 日目「行政法&労働法」→8 日目「商法&民訴」→9 日目「刑法刑訴」→10 日目「過去問フル 2~3 通ほど+その他苦手」。…。短答と同様。

- ・インプットとアウトプットどうしのバランスも、大事に。
- ・直前期になればなるほど、過去問をフルで書く頻度を高めていった。

3. 【論文の弱点を分析し、目的意識のある勉強方法を行った。】

(1) ケース 1

① 弱点の把握：

過去問を何回解いても、途中答案になることが多かった。(過去問からの逆算)

② 目的意識のある勉強方法：

途中答案ということは、どこかに時間をかけすぎているということなので、㊦問題文を読む時間、㊧答案構成、㊨実際に書いている時間、それぞれを科目ごとに、時間を測りました。そして、それぞれの時間をどうやったら削減できるのかを考えました。逆に、ここはどう頑張っても時間が削減できない、という点も把握しました。

そして、具体的な対策ができれば、まとめノートとして整理し、試験本番の直前に読み込みました。このノートは何度も見返し、自分が犯しやすい失敗を常に意識しました。

(※上記まとめノートに関しては、12 頁ほどにわたるため、内容を全部説明できていません。この後の質問コーナーで聞いてください。)

(2) ケース 2

① 弱点の把握：

書いている内容が間違っていないが、メリハリのない答案ばかりで、点数が伸びなかった。再現答案と全然違った。

② 目的意識のある勉強方法：

メリハリがついていないのは、出題趣旨が分かっていないからだ気づきました。

そのため、過去問を解く際に、㊦どう問題文を読めば出題趣旨に気づきやすくなるのかを工夫し、㊧日々の勉強の中で問題の所在を考えることで、司法試験の問題の所在たる出題趣旨にも気付くことができるようになり、㊨冗長的でない参考答案の特徴をパクリ、…etc 等、分析を行いました。

そして、答案で得た感覚を忘れないよう、上記まとめノートに一元化しました。

(cf. BEXA 愛川拓巳「司法試験合格答案作成ノート」も、参考にした)

第六 その他受験対策

1. もしも万が一、今年も司法試験が延期した場合（及び、新型コロナウイルス対策）

・記憶力の低下に注意！（総復習する時期に注意する。）

・蚊よけスプレー

（夏の時期は蚊に刺される。痒くて勉強に集中できないという事態は、もったいない）

・アルコールジェルか？除菌シートか？という問題 → 結論：主にアルコールジェル

（除菌シートのデメリット：液体が乾いたら、ただのシートになってしまい、使い物にならない。そのため、フタをきちんと閉めないとお金の無駄になる。あと、シートは幅を取るの、荷物が多い司法試験受験生にとって、会場に持っていくには不便？）

2. メンタルを強く持つために必要なこと

（1）睡眠

・気を付けるべき人：日中、1日2時間以上、勉強中に寝てしまう人は要注意。

（2）ストレスをため込まない。

・ヒーリングミュージック（川の音とか）、ヒーリング動画（山、海などの自然）。

・①乳酸菌/納豆菌と②食物繊維をバランスよく取る。おすすめは、バナナ、納豆巻き。
∴シンバイオティクスの観点から。（要は、①プロバイオティクスと②プレバイオティクスの摂取。分からなければググって下さい。）

・睡眠など、自分のことを地の底から強くする内部的要因に基づく行動をとるべき。

（なんかストレス軽減の GABA のチョコレートとかあるけど所詮チョコレートにすぎないという個人的意見。外部的要因は効果薄い。でも、チョコレートって美味しいよね）

★勉強の不安感、勉強でしか解消できない。

ただし、焦燥感をいったん落ち着かせるためという範囲内で息抜きをするのはあり。

（3）司法試験が延期したときに聴いてた曲

邦楽	洋楽
・阿部真央「Believe Yourself」	・Kelly Clarkson「Stronger」
・FUNKY MONKEY BABYS「悲しみなんて笑い飛ばせ」	・Imagine Dragons「Believer」
・SPYAIR「アイム・ア・ビリーバー」	・Rachel Platten「Fight Song」

第七 最後に

自分を分析し、弱点と向き合っていれば、絶対に合格できます。心が折れそうな時もあるかと思いますが、是非頑張ってください。皆さんなら、絶対に合格できると信じています。

合格者体験報告会レジュメ

報告者：森本 智子(平成31年度卒)

～今日話すこと～

- ① 自己紹介
- ② 1度目の司法試験談
- ③ 2度目の司法試験談
- ④ 最終合格するために必要なこと
- ⑤ 終わりに

1、 自己紹介

岡山大学法学部→大阪大学高等司法研究科へ。二度目の司法試験で合格。

2、 1度目の司法試験談

1度目の司法試験は、合格点まで28点足りずに不合格。法曹以外に自分の興味のある

仕事がなかったため、2度目で最後にすると誓って、2度目の受験を決意。

→ちなみに、現役時に行っていたゼミでは、あまり多くのゼミをしすぎない(消化不良になることを防ぐ)、本当のことを言ってくれる人とゼミを組む、成績が自分よりいい人と組むと良い、ゼミ時間を2時間とか決めて行う(ダラダラしない)、ゼミで話し合うことを決めておく等意識しており、かなり有効だったと思う。

<不合格後行ったこと>

・9月に結果が分かり、10月から家の近くの自習室を借りて、とりあえず予備校(辰巳)の答練を受け始める。

・先輩に試験結果を見てもらい、具体的アドバイスを聞く。特に悪かった民事系(商法以外)と刑事系の底上げを行うため、教科書を一新した。

→教科書を変えて、民法・民訴・刑訴は全てA評価を取れたので、問題集を回すこと(最低2回)、問題の所在を把握した学習をすることが大切。短答に関しても、同じで、私は短答式問題集を6周回した。短答と論文の対策に大きな違いはないと考えている。

参考：具体的な教科書名(百選は大前提なので省略)

民法：辰巳のえんしゅう本

民訴：ロースクール演習民事訴訟法(藪口康夫著)・辰巳のえんしゅう本

商法：現役時に使用した、事例演習教材の復習・判例の復習を行う。

刑法：えんしゅう本・事例演習教材

刑訴：エクササイズ刑事訴訟法(栗田知穂著)・古江先生の青い本・辰巳の刑事系書き方講座

・公法系科目については、ロースクール時代時間をかけて学習を行っていたこともあり、司法試験の成績は悪くはなかった。現状維持を行うことが必要であったため、精読憲法判例・司法試験過去問・事例研究行政法・答練の復習のみ行った。基本的にこれらに向き合っていれば、A評価は取れる(悪くてもB評価)。

・1日の勉強ルーティーンを変えた。

～現役時のルーティーン～

朝9時～9時30分までに自習室到着。

夜10時に自習室を出る。

一日にやるべきことのリストアップなどは特にしていなかった。結果、ダラダラすることがあった。

↓

～浪人時のルーティーン～

朝 9 時～9 時 3 0 分に自習室到着。

夜 1 0 時に自習室を出る。

論文は 1 時間半、短答・答練の復習は 1 時間と決めて、予めやるべきことを日記に書き出して、それをこなしていく。その日の終わりに、うまくいかなかったことやうまくいったこと等の感想を書く。その都度ルーティーンを修正。1 日の中で、お昼・夜は、1 時間程度休みを入れ、メリハリのある勉強法を確立した。

→計画を立てる時は、1 週間に 1 度調整日を設けたり、1 週間に一度は終業時間をはやめて、リラックスできる時間を作っていた。

3、 2 度目の司法試験談

私が実感したのは、いち早く失敗した原因を分析すること、問題から目を背けないことが大切。これから 3 年生は試験をうけるとありますが、受かった同期に結果を見せるのが辛いなら、先輩に聞くなりして、とにかく一人で抱え込まないこと。失敗して落ち込むことも必要ですが、同じ失敗を繰り返さないようにすることが一番！もう過去はやり直せないなので、今からどうするか？に目を向けること。

4、 最終合格のために必要なこと

最終合格のために必要なことは以下の通りです。

- ① 基礎知識：基礎知識を徹底的に定着させ（原則論）、判例の事案の概要と判決内容を

理解すること。判例の事案の概要は、5W1Hをおさえて、人に事案の概要を伝え

られられるくらいに、自分のものにすること。←L1又はL2で抑えるところ

思考方法：原則論は、～だけど、なぜこの判例は認めたんだろう？という素直な疑問を解決するために、判決内容を読む感じ。

→もし判例の読み方がわからない！というなら、合格る(うかる)判例(辰巳出版)を利用してみたいと思います。

- ② 問題解決力：試験問題はいわば一つの事件なので、問題文が何を求めているかを把握し、そこに向かうためにどの理論を使うか？ということを見極める力が必要。過去問演習や答練を通じて、知識を上手に引き出す練習をしていく。

③ 戦略：試験は2時間で書き切る必要があるため、焦った時に対処法等自分の弱点を踏まえた上で、科目毎にどう時間配分をするか？等戦略が必要。

参考：私の場合は、全ての教科の試験前に見直せるように、弱点をまとめたプリントを作っていました。焦ってしまった時の対処法とかを書き出して、とにかく全てのリスクを抑えることを心がけました。

- ④ なりたい気持ち：なりたい気持ちはどんな時も自分を支えるもので、当日の運をも左右すると思う。

5、 終わりに

私は、司法試験において一番大切なことは、方法だと思っています。ゴールを見据え

た勉強、つまり、どのレベルまでかけたら合格するかを知った上で勉強をすることが大切だと思います。ただがむしゃらに勉強して受かる試験ではないので、成績がいい人や先輩の勉強法を真似してみるとかして、自分に合う勉強法を見つけて下さい。そのためにも、自主ゼミをすることは有効な方法。

次に、今成績が良い人は、その成績を維持又はあげることを目指して、更に頑張ってください。他方で、成績がよくない人は、なぜ悪いのか？を分析してみて下さい（とにかく一点でも上げるために、努力すること）！成績がよくないことを悲観しすぎないこと。他人と比較しすぎないこと。常に自分の目標を見据えて、少しずつ頑張ってみて下さい。一人でもいいので今の自分の悩み等を打ち明けられる人をいれば、自分の成績を見せて何らかのアドバイスをもらうこともできると思います。

ロースクール時代には、色々な講演会、体験会、エクスターン、サマークラーク等があると思いますが、積極的に参加して、多くの法律家に会うことは、将来の法律家像を築くためにも、また、モチベーション維持のためにも、良いことです。また、基本的に後輩の人に頼られて嫌だと思ふ人はあまりいないと思うので、どんどん先輩に頼って、愚痴なりなんなり聞いてもらって、自分にとって心地のいい環境を作り上げて下さい！

何か個人的に質問等があれば、気軽に私のメールアドレス(satokomm.1219@gmail.com)に送ってください。皆さんに幸せな未来が来ることを切に願っております。

以上

合 格 体 験 報 告

既修者コース 青井一哲

0. はじめに

1. 法科大学院の授業の大切さ

司法試験は、「法科大学院の学修」の到達度試験

(1) 授業の予習の重要性

- ・予習段階で、自分なりの理解をきっちりと構築
- ・授業後の質問
- ・復習の充実

(2) 全ての科目を大切にすることで得られる学び

問題発見力や問題解決力が上がり、法的思考能力においても深みが増した

2. 司法試験の対策

今回の司法試験を受験するにあたってとくに重視したことは大きく2つ

(1) 体系的理解（網羅性）

全科目、基礎的な教科書を通読した

(2) 答案技術（短く多くの点に触れる）

筆が速い方ではなく、悪筆であることから、答案技術については人一倍、研究を重ねた

ア. 問われていることの把握

- ・答案で無駄なことを書かないためには、出題者から問われていることを正確に把握できていることが大前提
- ・基礎的な基本書を通読

イ. 言及すべき事項の選定（条文・要件・効果・判例・学説その他法的な考え方）

1科目120分という短い試験時間の中で、いかに多くの必要事項に言及できるか

(ア) 条文番号

- ・少ない文字数で点数につながる
- ・関連する条文を答案にちりばめることで、体系的理解が示せる
- ・民事系では併せて訴訟物という視点
- ・普段から条文をこまめに引いておく

(イ) 要件・効果

- ・短くても良いので、なるべく多く触れる
- ・三段論法を多用しすぎない（基本的には、事案の中に消極・積極の双方の間接事実が挙がっており、学説や事実評価次第で結論が分かれうるところのみ）

- ・充足が明らかな要件について、端的に「事実抽出→定義の充足→要件充足」を一行で短く書く技術も、三段論法と並んで非常に重要

(ウ) 問題提起

- ・必須でないため、問題の所在が見えづらい場合のみ

(エ) 争点部分の規範・理由付け・判例文言・考慮要素

- ・規範： 短く済ませ、あてはめに素早く入る（学説や判例にこだわりすぎない）
- ・理由： 覚えたものを吐き出すのではなく、自分の理解の中で大切と考えるポイントを、自分の言葉で短く書く
- ・判例文言： 考え方が合っていれば十分な点数がくるため、適宜、自分の言葉で要約して短く書いた
- ・判例の考慮要素： 規範として答案に書くのではなく、考慮要素に該当する事実をピックアップするための、あてはめの指標として用いた

ウ. 事実引用と事実評価の仕方

- ・すべてを丁寧に抜き書きする必要はない
- ・要約して短く事実を適示し、短く事実評価をして、結論を示したら、どんどん次に進み、なるべく多くの事実と言及することを心掛けた

(3) その他に気をつけたこと

ア. 答案をなるべく最後まで書き切ること

試験には厳しい制限時間があるため、理想論と現実論は区別した

- ・理想： 文章は短くわかりやすく、文字は大きく丁寧に、素人が読んでも分かるような親切な答案
- ・現実： 最低限の判読可能な文字で、玄人中の玄人の採点官の先生に善解して頂けるような最小限の文章を、時間内に書き切ること

イ. 短答式試験の重要性

- ・絶対評価が最終成績に持ち越されるため、最終合格の合格率と大きな相関性がある
- ・私がやったことは、過去問、基本書の通読、条文を引いた際に何を規定しているのか分からないものをコンメンタールなどできちんと調べておく等

ウ. 最後まで諦めない強い気持ち

- ・本番では、緊張・疲労・その他の外的要因により想定外のイレギュラーな事態が起こりうる
- ・どのようなコンディションであっても、全てを運命として受け容れ、ベストを尽くし続けること

3. おわりに

〔通読した教科書〕 憲法（芦部信喜）、基本行政法（中原茂樹）、新ハイブリッド民法 1-4（法律文化社）、新プリメール民法 5（家族法）、会社法（弘文堂）、基礎からわかる民事訴訟法（和田吉弘）、基本刑法 I・II（日本評論社）、LEGAL QUEST 刑事訴訟法（有斐閣）、国際関係私法入門（松岡博）

令和 2 年度司法試験合格体験報告会

田中一真

1 自己紹介

2014 年 3 月 慶應義塾大学法学部法律学科 卒業
2014 年 4 月 某証券会社に入社。3 年間、金融商品の販売等を行う営業職として勤務。
2017 年 3 月 同証券会社を退職
2017 年 4 月 大阪大学大学院高等司法研究科（未修） 入学
2020 年 3 月 大阪大学大学院高等司法研究科（未修） 修了
2020 年 8 月 司法試験受験
2021 年 1 月 司法試験合格

2 はじめに（勉強方針）

司法試験に向けた勉強を行うにあたって、以下の 3 つ（又は 4 つ）の勉強方針を意識。

① 量より質を高める

私の 1 日の勉強時間は平均 6 時間、法科大学院の期末試験前は 7～8 時間、司法試験の直前期は 8～10 時間であり、3 年間の最大で 10 時間程度。

勉強量は必ずしも十分ではないと考えたが、自分はこれ以上勉強量を増やせないと判断。量ではなく質を向上させることを意識。

② 基礎・基本を徹底する[最も重要]

司法試験は相対評価の試験。応用的な問題よりも基礎・基本的な問題をしっかりと解くことができるかが勝負を分ける。

したがって、まずは基礎・基本を徹底的に鍛えることが重要。

③ 法科大学院を活用する

法科大学院の授業はあくまで自学自習の契機のひとつにすぎない。ただし、せっかく法科大学院の講義・演習を受けるのであれば、その内容も有効に活用すべき。

そこで、授業を通して、司法試験の勉強内容の理解を深化させる。

(④ 休息日を設ける)

3 勉強法について

(1) 短答の勉強法

使用教材は憲法・民法・刑法全て短答過去問パーフェクト（辰巳法律研究所）

短答の勉強でのポイントは以下の 3 つ。

① とにかく勉強する[一番重要]

短答は勉強すれば得点でき、勉強しなければ得点できないため、勉強が得点に直結。
したがって、とにかくまずは勉強することが重要である。

② 民法で点数を稼ぐ

民法は短答の合計 175 点のうち 75 点を占める重要な科目であり、得点源となる。また、勉強すればするほど得点が伸びやすい科目。

したがって、まずは民法の得点を伸ばすことが重要である。

③ 短答の勉強で論文の勉強をする（勉強の質の向上）

短答の勉強は繰り返すうちに単調なものになる危険がある。

そこで、時間を効率的に使って短答と論文の学習を関連付けながら同時に行うことを意識。具体的には、問題の肢ごとに、仮にこの問題が論文で問われた場合にはどう答案に書くかということを意識して解く。

この勉強法は、最初のうちは莫大な時間がかかってしまう方法で根気を要する。もっとも、単に短答の問題と割り切って解くよりも格段に知識に対する理解が深まって定着度合いが高まり、結果的に忘れにくく論文にも活かすことができる知識にできた。

(2) 論文の勉強法

使用教材はアガルート（以下、AG）のテキスト、法科大学院での講義の事例問題。

論文の勉強でのポイントは以下の 2 つ。

① 短文事例問題を完璧にする（基礎・基本の徹底）[一番重要]

司法試験は相対評価の試験なので、基礎・基本の問題を落とさないことが重要。

AG の重要問題習得講座で基礎・基本を問う典型的な問題を繰り返し解き、類似の問題が問われたとしても完璧に解けるようにした。

② 答練を活用する（応用力の向上）

司法試験では長文の事例問題が出題されるため、現場でどの問題に対し、どのくらいの時間配分で、どのくらいの分量の答案を書くかという思考プロセスを経る経験が必要となる。

そこで、伊藤塾のペースメーカー論文答練、TKC の全国統一模試、辰巳法律研究所の全国公開模試を受験することで、上記の経験を積み、現場での応用力を向上させた。

4 法科大学院の活用について

(1) 1 年次 (L1)

未修で入学したことの意義を考え、基礎・基本を一から叩き込むことを意識して勉強。基本的に、授業の予習→受講→復習というプロセスを愚直に繰り返して知識を理解・記憶。

また、この段階から三段論法を意識して勉強することが重要。参考答案などを見ながら法律の答案をどのように書くのか具体的にイメージした。

(2) 2 年次 (L2)

L1 で学んだ知識（未修）又は法科大学院入学前に学んだ知識（既修）を事例問題の検討を通じて深く理解することを意識して勉強。個人的には L2 での学習が司法試験との関係で最も重要と考えている。

（３） ３年次（L3）

L3からは司法試験に向けての勉強を本格的に開始するため、AGでの学習を開始した。

L1やL2と異なり、L3では必修科目が減り履修単位数を少なくできたため、法科大学院の授業に要する時間を司法試験の勉強に充てた。

L3では、実務的な履修科目が多くなるため、司法試験の勉強を行うなかで、実務的な観点も加えた勉強をするよう意識した。

5 おわりに

1年生、2年生の方々は、基本的には法科大学院の授業をベースにして勉強をし、知識の理解・記憶を行うことが重要だと思います。3年生から司法試験の勉強を本格的に開始しても遅くないと思うので、現段階では基礎・基本を徹底的に固めることを意識してください。

3年生の方々は、司法試験の直前期なので緊張されていると思います。しかし、この時期になると今までやってきた勉強法や教材が自分の中で固まっていると思います。手を広げることなく、その教材を最後まで繰り返すことが重要です。また、自分がやってきたことに自信を持って本番に臨むことが何よりも重要だと思います。皆様の合格を心よりお祈りしております。

ご清聴ありがとうございました。

以上

これは誤字ではありません。この時期は、様々な合格体験記が溢れてています。もちろん私はそれらを否定しません。しかし、「勝ちに不思議な勝ちあり、負けに不思議な負けなし」という言葉があります。至言です。正直私の合格は、運に助けられた面もあります。また上位合格者は、自分ができることは当然と思い、文章にされないことも多いはずです。だから、不合格者を反面教師にした方が良くありませんか？私の経験を皆さんの参考にしていただければ幸いです。特に短答で120点程度の知識量はあるけれども、論文の成績が2000番程度で伸びない人は特に参考になります。

私自身は短答式試験は、合格していたのですが、ずっと論文式試験で不合格でした。正直安易に考えていました。「次は上から1,500名が抜けるのだから、来年は自分の番が回ってくるだろう」と。しかし、毎年予備試験の合格者が400名参入し、ローの上位層が毎年新規参入しています。根拠のない楽観論は有害です。私自身は、卒業後民間企業に就職したこともあり、惰性で受験していたところもあります。

まず、精神論になりますが、最後まで絶対にあきらめないでください。私自身令和2年度の短答民法で苦戦しました。問題を解きながら、短答落ちが頭をよぎりました。この試験は相対評価ですので、あきらめなければ浮き上がります。

次に、実質的な学修を行うことです。形式的に過去問を解いていませんか？手を動かすだけの運動になっていませんか？単に「論点を落とした。ここは次書けるようにしよう」と安易に考えていませんか？安易に演習書をはしごしていませんか？もっと深みにある学修をしましょう。

具体的なチェックポイントは以下の通りです。

知識の網羅性に欠けたのではないか？

正確な記憶ができていたか？

典型事案・判例の事案との差異がわかっていなかったか？

出題趣旨・採点実感で繰り返し言われたことができなかったのか？

途中答案なら、タイムコントロールに失敗したのか？筆力が足りないのか？

条文を意識して解釈できているか？

きちんと文言を引用できているか？

当事者視点（特に私法）にたち、主張できているか？

問題文の事実を使い切ることができたか？

その事実の評価はできているか？論文試験は、点取り競争としての側面があ

ります。少しでも配点項目に触れてください。

誘導に乗ることはできているか？

逆に一般論を長々を書いていないか？

読みやすい文字か？

文章の流れは良く、三段論法は守られているか？

このようにできる限りできなかった理由を分解する必要があります。すなわち、弱点分析と補強です。敵（過去問の合格水準）と己（自らの答案）を知り、その距離を縮めてください。合格答案は遠い島にあるものではありません。あなたの答案と未来の合格答案は地続きにあります。今手元にある答案を修正を重ねていくことによって、合格答案に接近していきます。論文の問題は難しいですが、合格レベルは意外と高くありません。前述のように相対評価なので、上記の弱点を修正していくだけで、浮き上がります。それを、本試験の日までそれをあきらめずに行う必要があります。

最後までお読みいただきありがとうございます。最後に、私を応援してください。皆さまに感謝の言葉と、これ読んでいる皆さんの健闘を心からお祈りして、ペンを置きます。

以上

勉強法の目的手段審査、民法の重要性

● 勉強法の目的手段審査

より高確率で合格したいと考えるのであれば、まずは勉強の「量」にこだわってください（息抜きの割合が大き過ぎる人が少なくありません。）。それがスタート地点です。「量」をこなしたうえで思ったような結果が出ない場合（期末試験の結果が芳しくない、過去問演習で満足のいく答案が書けない等）、①結果が出なかった原因を丁寧に分析し、②原因を克服するための勉強法を吟味して勉強の「質」を向上させてください（＝勉強法の目的手段審査）。

結果が出なかった原因は、時間配分のミスなのか、問題文を読み違えたのか、原理原則レベルでのインプットが不足していたのか、暗記レベルでのインプットが不足していたのか、インプットは十分だったが当てはめで書き負けたのか等、多種多様なものが考えられます。「分析により判明した原因を改善すること」、が今後の勉強法の「目的」になります。

「目的」を把握したら、次は「手段」の吟味です。例えば、原因が原理原則レベルでのインプット不足にあるのであれば、闇雲に起案の回数を増やしてもインプットの時間が足りなくなってしまう、「目的」を十分に達成できません。ただ、起案を全くしないと答案構成力が衰える等の弊害が生じるかもしれません。そこで、「起案の回数は腕試しとして週1回に絞り、自らのインプット教材を読む時間を増やす」、がより「目的」を達成するために必要かつ相当な「手段」といえそうです。他方、「文章力には自信がある。足りていないのはインプットだけだ!」という方であれば、起案はせずにひたすら自らのインプット教材を読む、というのもアリでしょう。

少なくとも私はこのように勉強法を吟味し続けた結果、無事合格することができました。成績もそれなりに良かったです。この吟味ができるのは、あなた自身だけです（他人はあなたの勉強の「結果」は知っていても「過程」をすべて把握しているわけではありませんから、他人からのアドバイスは結果論であることが多いです。）。この分析は自分の弱点に正面から向き合うことですので、非常に辛いことです。しかし、「これさえすれば合格できる!」なんて夢のような勉強法は存在しません（存在するのであれば皆やります。）。やるしかありません。逃げずに頑張りましょう。合格したいのであれば。

● 民法の重要性

多くは語りませんが（語り始めると極めて長くなってしまいますので…。）、とにかく民

法の勉強を怠らないでください。民法をキチンと勉強することは、必ず合格への糧となります。